民記者

れます。そこでは、当番とリサイク の月2回、児童館の駐車場で実施さ

地域内の身近なふれあい活動を紹介します 毎月第3日曜日の朝、 川島地区伊

りの話合いから始まりました。 美地域サロン「ふれあい会」 讃美児童館は活気にあふれていま すい代表) による地域の居場所づく 朝市のコラボレーション」は、 いるからです。「リサイクルと野菜 に合わせて、野菜朝市が開催されて 久男会長)が行うリサイクル収集日 す。それは、 伊讃美自治会(堀江

る田嶋さんにお話を伺いました。 と朝市について、朝市を主催してい コラボレーション実現までの過程

一つのふれあい活動が出会う前

リサイクルは、

· 第 1、

第3日曜日

なかきや 中木屋 ^{ひろし} 宏 さん みなさんが楽しそうに交流す る様子をみて、ふれあいの場 の大切さを再認識しました。

> なさんと交流を深めてきました。 いきいきと生活できるようにした れあい会は「高齢者が地域で元気に ふれあい活動が行われてきました。 ルに来た人で会話が始まり、 続けています。この活動で地域のみ い」という思いで、介護予防活動を 10年前に田嶋さんが立ち上げたふ

コラボレーションの始まり

レーション」が実現したのです。 の「リサイクルと野菜朝市のコラボ 会員が持ち寄った野菜で、第1回日 された規格外野菜と、ふれあい会の

朝市とふれあい活動の様子

地域内の農家の規格外野菜を活用. 催し物を、ふれあい会で何かできな いか話し合いました。その中から 「ふれあい活動をより充実させるた 伊讃美の特長を生かした新しい



地域のみなさんでにぎわう朝市の様子

が集まり、そこは、会話を楽しむふ 来た人で賑わっていました。少し離 れあいの場となっていました。 れたところに並べられた椅子には人 を楽しみに来た人、近隣の地域から リサイクルに合わせて来た人や朝市 入ると、さまざまな旬の野菜が並び 材当日は雨でしたが、児童館に を重ね8回目を迎えていました。 初回から好評を博した朝市は、 一步 取

朝市の位置づけと今後の展開

が参加する秋まつりを行ってきまし 伊讃美地域では、 例年約450人

> 企画をしていきたいそうです。 間の交流を含め、みんなが楽しめる 朝市という、ふれあいの場を提供し がら地域のみなさんの協力も得て、 除き、コロナ感染防止対策を取りな ふれあい会は緊急事態宣言の期間を てきたとのことです。今後は、世代 なっています。そのような状況の中、 たが、現在はコロナ禍により中止と

取材を終えて

天候に左右されない朝市にするた

雨天時には児童館の中で行うこ

から距離をとって設けることにし、

とになりました」と話す田嶋さん。

そして、今年1月、農家から提供

3密を避けるため、

リサイクル場所

ことが決まりました。 合わせて月に1回、 ち合わせた結果、リサイクルの日に を実現させたいと思い、自治会と打 では、という案がでました。この案 た朝市を開けば交流の場が広がるの

朝市を開催する 開催場所は

う身近なふれあい活動と、その活動 みなさんが、協力・工夫しながら行 も足を運んでみてはいかがですか。 による人とのつながりや支え合いの 大切さを感じました。ぜひみなさん さまざまな制約の中でも、 地域の



